福井県
坂井市三国町の石仏

資料作成：滝本やすし（石川県金沢市）

三国町川崎鵜森神社の石祠

三国町

01 池上　伊伎神社／白山三所権現、雨宝童子三尊
02 加戸　加戸神社／善光寺式阿弥陀三尊、稲荷神、神明神社石祠[六字明王]
03 覚善　路傍／勢至菩薩
04 山王２丁目　日蓮宗妙海寺／弁財天、五重塔、十一面千手観音
05 南本町４丁目　真言宗智山派性海寺／多宝塔、善光寺式阿弥陀三尊、十三仏
06 滝谷１丁目　真言宗智山派瀧谷寺／十三仏石龕、阿弥陀如来、宝篋印塔
07 神明１丁目　浄土宗月窓寺／義賢名号塔
08 油屋　神明神社／旧本殿石祠[雨宝童子]
09 玉ノ江　春日神社／双体神像、如意輪観音石祠
10 西今市　神明神社／不動明王、越知山大権現石祠、白山権現石祠
11 西今市　路傍／六字明王

01 池上　伊伎神社／白山三所権現、雨宝童子三尊

宝亀６年(775)に白山神社として創祀。永正１２年(1515)焼失、万治３年(1660)再建。明治２５年に、境内社の伊伎神社と薬師神社を合祀。明治４０年に、丑卯堂山の神明神社、出垣内の観山神社、萩野の白山社を合祀し、伊伎神社と改名。伊邪那美神を主祭神とし、日本武尊、大山祇女命、速須佐之男神、男大迹天皇、安閑天皇、大山津見神、大日霎貴尊(天照大神)、伊弉册尊を合祀している。大日霎貴尊は合祀された神明神社の祭神、大山祇女命は合祀された観山神社の祭神、伊弉册尊は合祀された白山社の祭神である。境内には帝釈天堂と毘沙門天堂が建てられている。

本殿の奥は３連の厨子になっており、中央に木造の阿弥陀三尊立像、右に木造聖観音座像と石造雨宝童子三尊立像、左には石造白山三所権現座像２躯と石造不動明王立像および石造雨宝童子立像が祀られている。

『池上区史』より、石造雨宝童子三尊および石造白山三所権現の記述を転記する。

石造雨宝童子三尊

角形の凝灰岩を用いた高さ64cm×巾46cm×厚さ5、5cm の石材の中央に上部に五輪塔をいただき左手に宝珠、右手に杖をとる雨宝童子の立像を、その向って右に錫杖と摩尼宝珠をとる地蔵菩薩を、左に杖をとり頭巾をかぶる道釈像を配する雨宝童子三尊像で、別記の白山三所権現像と同じ頃につくられたものと思われる。もと天台の信仰地域では神明と天台の信仰が合って本地仏として雨宝童子を祀られた事が多かったので、この像はもと神明の御神体として祀られていたものと云われる。

石造白山三所権現

角形の凝灰岩を用いた高さ52cm×巾39、5cm×厚さ5cm の石仏で十一面観音を中尊とし、向かって右に上品上生の阿弥陀仏を、左に聖観音の三尊像を白山の山容を台座として並列に配している。半肉彫式に彫り出されている。つくられた時代は後記の三所権現と同じ頃とみなされている。

石造白山三所権現

角形の凝灰岩を用いた高さ59、5cm×巾40cm×厚さ5、5cm 大の長方形の石仏で中央やや上方に蓮台上に座す阿弥陀如来像を中尊とし、その右下に蓮台上に座す聖観音を、左下に蓮台上に座す十一面観音を半肉彫式に彫り出されている。中尊の下に「天和三」「祈繁昌氏子」と沈刻銘があり、江戸時代の天和三年(1683)のものと知ることができる。もと白山神社の御神体として祀られていたものと云われる。

これらの石像は石祠の奥壁内面に彫られていたのを、後に解体されて刻像部分のみを本殿に祀ったものである。雨宝童子の脇侍で道釈像と記述されている尊像は、制吒迦童子であろうか。これと同様の雨宝童子三尊は、すぐ近くのあわら市牛山の神明神社にもみられる。また２躯の石造白山三所権現のうちの一方はもと

の白山神社の御神体で、もう一方は合祀された萩野の白山社の御神体であろう。

不動明王は砂岩製の小型の浮彫り立像で、後に奉納されたものである。また雨宝童子立像は高さ３０cm ほどの丸い安山岩製の石柱に筆で描かれた彩色絵像で、頭上の五輪塔は描かれていない。こちらも近年の作と思われる。

左：雨宝童子三尊　中：白山三所権現　右：白山三所権現　『三国町の宗教美術』より

02 加戸　加戸神社／善光寺式阿弥陀三尊、稲荷神、神明神社石祠［六字明王］

長元２年（1029）大河原神社として創祀。明治４０年に境内社や近隣の１３社を合祀して、加戸神社と改称した。水速女命を主祭神として、宇計保命、伊弉册尊、白山媛女命、天照皇大神を合祀している。境内社は、大神宮神社、白山神社、神明神社。

鳥居の左手に、コンクリート製の小堂と木造の小堂が建てられている。左の堂には地蔵が２体、右の堂には善光寺式阿弥陀三尊が納められている。

本殿左手に木製の赤い鳥居が建てられており、その奥の階段を登った所に木造の祠と石造の祠が並んで建てられている。

木造の小祠内に、中型の石造狛犬１対と小型の石造狛犬３対、稲荷神などが納められている。

右の石祠は前面に長方形の窓が３つ並んで開けられている。奥壁には六字明王立像が浮彫りされた石板が納められているので、この石祠は天照皇大神を祭神とする神明神社であろう。

六字明王

03 覚善　路傍／勢至菩薩

坂井西署向かいの共同墓地入り口に、勢至菩薩が納められた木造の堂が建てられている。笏谷石製の角板型の大きな石塔で、上部に宝珠が彫られ、彫りくぼめた前面に勢至菩薩が浮彫りされている。合掌する立像であるが、頭上の宝瓶や宝冠の水瓶が彫られていないので観音のように見える。

左側面に「サク・南無大勢至菩薩 為六親眷属菩提 敬白」、右側面には「天和二壬戌稔(1682)卯月十三日」と刻まれている。六親眷属とは、父･母･兄･弟･妻･子など家族や親族一般のことである。

勢至菩薩

勢至菩薩は観音菩薩と共に阿弥陀如来の脇侍として造立される例が多い。また午年の守り本尊や十三仏の一周忌本尊としても作例がみられるが、単体での造立は珍しい。

勢至菩薩の単体造立の代表例は、京都市の浄土宗総本山知恩院である。法然上人は幼名を勢至丸と称し、弟子の親鸞は法然の没後に「大勢至菩薩は源空上人(法然)の本地である」と述べている。知恩院には本地堂(勢至堂)が建てられており、合掌する勢至菩薩が法然の本地仏として安置されている。覚善の勢至菩薩はこれに習ったのであろうか。

04 山王２丁目　日蓮宗妙海寺／弁財天、五重塔、十一面千手観音

妙海寺本堂の右手に、稲荷神社、秋山神社、河濯神社が合祀された祠が建てられている。これらは怪我や病気の治癒にご利益がある三柱である。河濯神は木造の金彩金剛界大日如来座像である。河濯神の手前に、笏谷石製の八臂弁財天が立てかけられている。また祠内の左側には僧形像が浮彫りされた石板が立てかけられている。秋山自雲霊神であろうか。

弁財天

境内には三国の遊女であり俳人であった哥川(豊田屋歌川)の「奥底の知れぬ寒さや海の音」の句碑が建てられている。また墓地の「豊田家先祖代々諸霊」と刻まれた墓標には、哥川の戒名「釋尼妙春」も刻まれている。

墓地の奥には、石造の五重塔が建てられている。塔身内部には、石造の２尊像が納められている。舟光背を繋げた形で、釈迦如来と多宝如来の座像を浮彫りしており、二尊の間には題目が刻まれた塔婆も浮彫りされている。

妙海寺の西墓地は三国湊城址であり、入り口の案内板に次のように記述されている。（一部省略）

三国湊城址

中世に勢力を誇った三国湊白山千手寺は、南北朝の動乱の際に城郭として利用され、湊城あるいは千手寺城と呼ばれた。『太平記』には「中にも湊城とて、北陸道七箇国の勢共が終に攻落せざりし城は、義助の若党畑六郎左衛門時能が、僅二十三人にて篭ったり平城也」とある。江戸期には商人たちの港会所が、明治期は郡役所が置かれた。古来より三国湊の中心地であった。現在は妙海寺西墓地。

墓地入り口の木造堂内に、笏谷石製の十一面千手観音立像が納められている。『みくにの文化財』に次のように記述されている。（一部省略）

千手観音石像　1躯

高さ 137.0cm　幅 64.5cm

天正16年(1588)

もと性海寺観音堂の下にあったものを今は三国湊城址に移してある。青味をおびた凝灰岩をもちい、厚さ11cmぐらいで、基壇と単弁蓮華座の上に十一面千手観音の立像を彫り出してある。顔面から頸部にかけて破損があるのは残念であるが、衣のひだの平行線が美しく、また、下頬や唇のあたりに美しい尊容をのこしている。

両脇の板石綿に「権津師宗音泉蔵坊■■」「天正十六年(1588)戊子三月十八日」の銘があり、三国にのこる在銘石仏としては古いもののひとつである。

この地は中世に天台宗千手寺十二坊のあった場所で、この十一面千手観音はその遺構である。

05 南本町４丁目　真言宗智山派性海寺／多宝塔、善光寺式阿弥陀三尊、十三仏

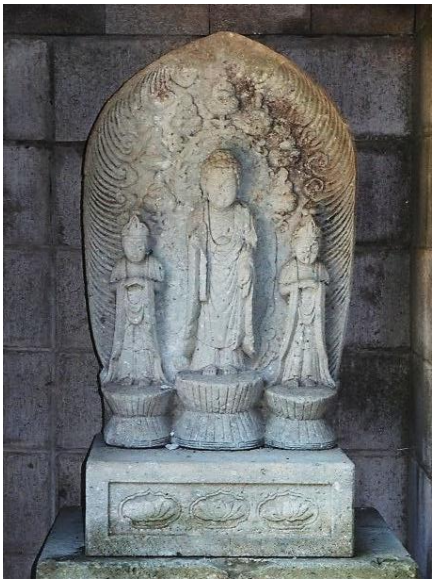
性海寺は真言宗智山派の寺院で、宗信によって延文元年(1356)に律宗の寺院として宿浦篠谷において創建。二世空信の永徳元年(1381)に現在地へ移り、真言宗智山派に改宗した。薬師如来を本尊としている。

境内の右手には多宝塔が建てられている。多宝塔は『越前笏谷石』に次のように記述されている。

多宝塔

山門をくぐり抜けた境内右側の高い所に、一風変わった笏谷石製の多宝塔が建てられている。塔身は石龕の形式をとり、この中に「宗信上人　空信上人　各尊位」と彫られた石碑が納められている。屋根は丸岡城の屋根瓦のような形の石瓦を形どり、首部は八面体で各面に「ア」「アン」「アク」など梵字種子が浮彫りされている。相輪部分は一部分だけしか遺っていない。「元禄十二己卯年(1699)八月廿五日、大工福居　岩本元兵衛　同姓三右衛門」と創建の年号、石工まで記録されている遺品は少なく、また、このような形式の多宝塔はまず他に類がないであろう。

多宝塔



善光寺式阿弥陀三尊

境内の左手には、六地蔵と善光寺式阿弥陀三尊が並んでいる。善光寺式阿弥陀三尊は厚肉彫りの像で、若干の剥落があるが丁寧な作りで優美な姿である。

墓地内の東側には歴代住職の墓標である宝篋印塔が並んで建てられており、対面して森田家の石廟が並んでいる。また墓地内には韃靼漂流者の供養塔も建てられている。

墓地の奥には一石に十三仏が彫られた石塔がみられる。家型の板状の石板の上段に７体、下段に６体の尊像が浮彫りされている。すべて座像であるが剥落が激しく、尊名を特定できないものがある。

十三仏

06 滝谷１丁目　真言宗智山派瀧谷寺／十三仏石龕、阿弥陀如来、宝篋印塔

瀧谷寺は真言宗智山派の寺院で、永和元年(1375)創建。薬師如来を本尊としている。国宝の金銅毛彫宝相華文磬をはじめとする数多くの宝物を所蔵されている。

観音堂の右手の墓地入り口に、石造の開山堂が建てられている。『みくにの文化財』に次のように記述されている。(一部省略)

開山堂（十三仏石龕）

瀧谷寺開山堂　1棟

笏谷石切妻造

桁行 3.3m　梁間 2.5m　高さ 2.35m

元亀3年(1572)建立　貞享3年(1686)修復

この堂には開山および第四世の石造肖像彫刻が安置されている。開山像の台座に「開山睿憲僧都／応永(1420)廿七年九月十六日」、第四世のそれには「法印頼住第四世／延徳三(1491) 九月」と刻まれており、第五世頼雄法印が施主となって造像したものである。もともと石龕はなく露天に安置されていたのであろうが第八世実隆上人の時代に堀江善佐衛門父子が保存兼用の十三仏石龕を建てその中に開山および師をまつったものであろう。元亀3年在銘の十三仏石龕は全国的にも珍しい形式である。

なお堀江氏は河口庄の豪族で三国湊の代官をつとめた。

開山堂の周りには歴代の墓標である五輪塔が並んで建てられており、これらの中には「逆修」と刻まれたものもみられる。

開山堂への登り口と鎮守堂への登り口の間には、丸彫りの阿弥陀如来座像、三界萬霊塔、六地蔵石灯籠が並んで建てられている。

鎮守堂の右手前には、大きな宝篋印塔が建てられている。『越前笏谷石』に次のように記述されている。

宝篋印塔

宝篋印塔

鎮守堂への石段を上って、右側を見ると宝永五年(1708)の銘を有する宝篋印陀羅尼経を納めた大形の宝篋印塔が見られる。この宝篋印塔は高さが凡そ5メートル、基礎には複弁の反花、その上に配置された蓮華座上に塔身が乗せられ、笠には大きく反った隅飾突起を有し、突起の内部は二弧を描く。四角の伏鉢四面には格狭間、その内部には堅連子も彫られており、武生市(現在の越前市)の宝円寺や窓安寺にみられる宝篋印塔と類似の江戸時代中期の特徴を表したものといえる。

07 神明１丁目　浄土宗月窓寺／義賢名号塔

月窓寺は浄土宗寺院で、永禄２年(1559)創建。阿弥陀如来を本尊としている。近松門左衛門の「せいけい仏の原」に登場する寺院として知られる。

墓地の手前には、砂岩製の自然石の義賢名号塔が建てられている。名号の下には義賢の署名と花押が刻まれているが、造立年等の銘は入っていない。三国では義賢の名号塔はこの１基のみを確認しており、義賢が三国を巡錫したことがうかがえる貴重な資料である。

墓地の中には「虫群霊之塔」と刻まれた石塔もみられる。駆除した害虫の供養塔であろうか。

義賢名号塔

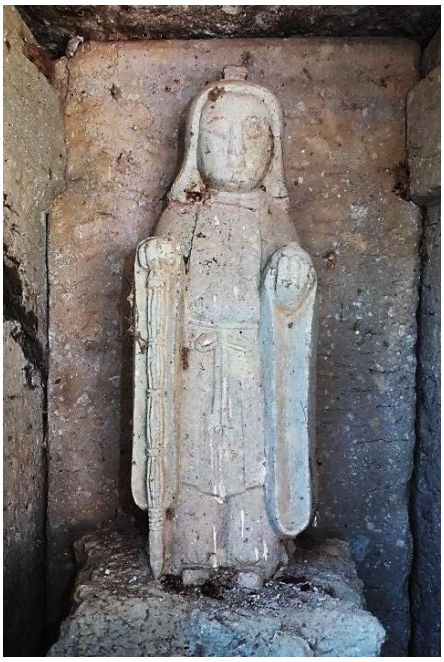
08 油屋　神明神社／旧本殿石祠[雨宝童子]

創祀年月不詳。天照皇大神を祭神としている。現在の社殿は、昭和５４年に再建されたものである。

拝殿の左手に、２基の石祠が並んで建てられている。

右の石祠内には、丸彫りの石造雨宝童子立像が納められている。頭上の五輪塔が途中で折れてしまっている。像高３７㎝。この石祠は神明神社の旧社殿ではないかと思われるので、雨宝童子はもとの御神体であろうか。

左の石祠は前面に日月の窓が開けられており、奥壁内面には狐に乗った神像が浮彫りされている。稲荷神であろうか。



雨宝童子

09 玉ノ江　春日神社／双体神像、如意輪観音石祠

創祀年月不詳。天津兒屋根命を祭神とし、その本地仏である木造如意輪観音を御神体としている。明治４４年に宮前の御前神社に合祀されたが、昭和１４年に社殿を再建し、昭和２１年に戻された。本殿左奥には、石龕と２基の石祠が並べられている。

左の石龕には、２体の神像が並んで浮彫りされている。『三国町の宗教美術』に次のように記述されている。(一部省略)

石造二尊並立道祖神彫出石龕

この石龕は、当社の境内にあるもので、その構造は、凝灰岩らしい石を用い、軸部と屋根の二材よりなるもので、軸部は32㎝×32㎝×24㎝ 大の角材の前面に、23㎝×24㎝に奥行7㎝を刳り取り、それに寄棟風につくられた屋根を載せ、祠にしているもので、簡単堅牢な構造のものである。

二尊並座の道祖神は、その刳取りの奥壁面に、半肉彫式に彫出されている。かなり風蝕をうけているので、頭部、胴体、脚部等の識別は明確に出来るが、面貌、衣文等までは知ることが出来ない。従って造立の時代もわからないが、近くの北潟にも半彫式の二尊並座の道祖神が遺存しており、その像は沈刻銘によると、永禄八年である。手法等からみて、時代的には北潟の道祖神と、大きな異いがなさそうで、室町時代とみられる。

上：双体神像　　下：如意輪観音

これらと同様の双体神像は、あわら市、坂井市、福井市に１０基ほど確認される。

中央の石祠は扉が欠損しており、奥壁内面に四臂の如意輪観音が浮彫りされている。像高３２㎝。屋根の正面に「如意輪觀世音尊像」、左右の柱に「天和貳稔(1682)／壬戌六月十八日」と刻まれている。この如意輪観音は、春日神社のもとの御神体だったのだろうか。

右の石祠は前面に日月の窓が開けられているが、内部の尊像を確認できない。

10 西今市　神明神社／不動明王、越知山大権現石祠、白山権現石祠

創祀年月不詳。祭神は天照皇大神で、木造雨宝童子立像を御神体としている。境内社は金毘羅神社。

鳥居の右手には、４基の石祠と十一面観音、不動明王が並んでいる。

いちばん右の木造小堂内には、笏谷石製の舟光背型十一面観音立像が納められている。光背上部に、阿弥陀三尊の種子(キリーク・サ・サク)が刻まれている。また光背の左右に「元禄七■戌天(1694)六月十八日」と施主および願主名が刻まれている。

不動明王立像は、上部に宝珠が彫られた笏谷石製の角柱型石塔の前面に浮彫りされている。尊像の左右に「元禄十四年(1701)／巳十月■八日／■正称誉■阿念■■■」と刻まれている。

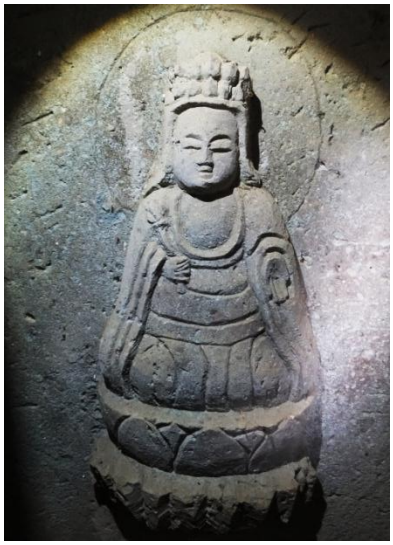
４基建てられている石祠のいちばん右の石祠は、前面に角型の窓が３ヶ所開けられており、中央の窓の下に「越知山大權現」、右方に「安政四丁巳年(1857)九月吉日」と刻まれている。奥壁内面には、越智山三所権現の尊像が浮彫りされている。中央の窓の奥は十一面観音、左下の窓の奥は阿弥陀如来、右下の窓の奥は聖観音で、いずれも厚肉彫りの座像である。

右から２番目の石祠は前面に日月の窓が開けられているが、現在内部には奉納物は納められていない。

左から２番目の石祠も前面に日月の窓が開けられており、内部には小さな石造地蔵立像が納められている。この地蔵は新しいものであり、造立当初に納められていた尊像は不明である。

いちばん左の石祠は屋根の上部の四方に鬼面が掲げられており、前面上部に角型の窓が３つ並んで開けられている。窓の下方中央に「白山権現」、その左右に「慶安五壬辰年(1652)／三月廿三日」と刻まれている。奥壁内面には、白山御前峰の本地である十一面観音座像が浮彫りされている。

不動明王



十一面観音

11 西今市　路傍／六字明王

神明神社向かいのコンクリートブロック製の小堂に、六字明王立像、不動明王立像、僧形座像が納められている。旧坂井郡では、六字明王は真言宗と結びついた神明神社の御神体であった。向かいの神明神社は天台宗と結びついており、雨宝童子が御神体として祀られているので、近隣の真言系の神明神社の御神体だったと考えられる。

六字明王